

スマイル ハート

[Smile Heart] No. 31

情熱あふれる
産地づくりを目指して

October 2016

10

特集

ニホンザルの被害対策について



父から息子へ…
協力し合い、継承していく農業

紀州農語

今回ご紹介の作物
【ミニトマトほか】

日高町小中

野田 ^{ひで き}秀樹さん(50才)
^{よし き}佳希さん(23才)

水稲260a、ハウスミニトマト17a、
ウスイエンドウ7a、ゴーヤ5a、露地ミニ
トマト3aを栽培しています。秀樹さん、
秀樹さんの奥さん、息子の佳希さんと
3人で、協力しながら農業を
しています。

協力しながら、 農業に取り組む

ハウスミニトマト、水稲は秀樹さんが中心に、ウスイエンドウ、ゴーヤ、露地ミニトマトは息子の佳希さんが中心になり、栽培しています。秀樹さんは、30年近くミニトマトを作り続けています。ミニトマトは長年、収穫量が多いサンチェリーピュアを栽培してきました。今年は8

月下旬頃から定植が始まり、家族で協力し合って作業を行ったそうです。また、今年はサンチェリーピュアのほか、キャロルスターとサンチェリーピュアプラスを試験的に栽培しているとのこと。糖度や食味も重視した栽培にしたいと考え、積極的に取り組んでいます。栽培管理では、近年増加している黄化葉巻病にとくに注意して、防除を徹底していくと話します。

父から息子へ

佳希さんは小さい頃から農業を手伝って育ち、高校でも農業について学びました。卒業後すぐに就農し、両親と共に農業に取り組んでいます。農作業を苦に感じることはない。父である秀樹さんのハウスミニトマト栽培などにも一緒に取り組み、学びながら自身の栽培技術向上に努めています。

秀樹さんと佳希さんは、農業は自分たちに合っていると感じており、農業に関して意見が衝突したことはないと話します。将来的には、秀樹さんは佳希さんに農業をすべて任せたいと考えており、これからも頑張っ

てほしいとエールを送ります。農業は天候に左右されることもありますが、高品質な作物の栽培、安定した農業経営を目指し、これからも協力しながら、農業を続けていきたいと話してくれました。



スマイルポート Contents 2016. October

紀州農語り.....	2
特集.....	4
ニホンザルの被害対策について ～地域のみんなで取り組み～	
ご長寿おめでとうございます！	6
トピックス.....	7
あぐりガイド.....	14
インフォメーション.....	20
読者の広場.....	26
ふれあいコーナー・ 表紙紹介.....	27
J A 紀州クッキング.....	28



ニホンザルの被害対策について

地域のみんなできり組もう

鳥獣害対策記事
集中掲載第4弾



ニホンザル

①はじめに

和歌山県内では、主に中部から南部にかけてニホンザルが生息しており、農作物被害額は平成27年度で約5千万円となっています。ニホンザルの被害対策は、他の獣種に比べて難しく、途中で耕作をあきらめてしまう事例も見受けられます。

ニホンザルによる被害を減少させるため、その生態と被害対策を知り、地域の現状を把握して、対策を進めましょう。

②被害と生態について

①被害

- 農作物は、いも類、果実類、野菜、水稻など何でも食べます。
- 食べないものは、トウガラシ、シソ、ゴボウ、ショウガ等ごくわずかです。
- ドングリ等の堅果類の実が不作の年は、特に被害が多いと言われています。
- 農作物の食害以外に、果樹の樹皮食害や水稻の倒伏被害もあります。

②生態

- 行動パターン
昼行性で、夜間に活動することはありません。20〜60頭の群れで、ある程度決まった範囲の中をエサを求めて移動します。1〜数匹のサルが農地や集落近くに偵察のために出没し始めると、その後、群れでやってくる可能性が高いです。
- 繁殖
秋から冬に交尾し、春から夏にかけて1頭出産します。メスは5〜6歳で初産し、以降2〜3年間隔で1頭出産します。ただ

サルによるカキ食害



サルによるミカン食害



し、栄養状態が良いと毎年出産する場合もあります。寿命は15歳程度で、メスは生涯生まれた群れで生活し、オスは離れザルになったり他の群れに入ります。

● 高い学習能力
エサを食べながら味を覚えたり、エサの場所を記憶するなど学習能力、記憶力は高いです。



3 被害の要因と対策について

①被害を引き起こす要因

サルは、山野で少ないエサを探すよりは、農地や集落に出没して農作物や収穫残さなど楽に得られるエサを食べようとします。つまり、農地や集落はサルにとって「魅力的なエサ場」になっています。

廃棄農作物や収穫残さなどを食べられても、人間はさほど被害に感じませんが、サルはエサ場として認識して出沒し続けます。この時に、脅すなどして恐怖心を与えなければ、ますます安全なエサ場としての認識が高くなり、出沒頻度は増加します。

②対策

サルにとって「居心地が悪くてエサがない場所」にすることが大切です。そのためには…

①集落から野外に放置された食物をなくす

耕作や収穫を止めてしまった田畑や果樹園は、掘り起こしや伐採を行って食物を実らせないようにします。廃棄農作物や収穫残さは、焼却や穴に埋めます。

【具体的な取組例】

- ・収穫されていない放任果樹は伐採する。
- ・極早生や早生品種など、ヒコバエが成長しやすい水稻作付け田では秋耕をする。
- ・生ゴミや野菜くずはコンポスト化する。

②集落（人）を怖いと認識させる

サルを発見したら、花火・音などで何度も繰り返し、とにかく脅かします。

サルの学習能力・記憶力を利用し、「集落は

怖い所、嫌いな所」だと学習させ記憶させることにより被害の軽減が図られます。

【具体的な取組例】

- ・大声をあげて追う、又は金具を叩く等、大きな音をたてて脅かす。
- ・ロケット花火、爆竹等を用いて追う。

③囲えるモノは正しく囲う

サルは樹木から柵に飛び移ったり、柵をよじ登ったりして侵入するので、電気柵（ネット型・ワイヤーメッシュ型）が効果的です。また電気柵以外にも、サルの行動特性に合わせた様々な防護柵があります。

設置の際は、周囲の樹木からの飛び込みを防ぐため、周囲の樹木から5m以上離すことが重要です。

④隠れ場所や逃げ場を減らす

サルが逃げられる高木や茂った藪などは、サルが安心できる場所になります。農地周辺の竹やぶの管理や草刈りなどが効果的です。

【具体的な取組例】

- ・農地と森林との境界部分にある高木や雑草帯を伐採する。
- ・畦畔へ防草シートを施設し、農地周りの雑草帯をなくす。

⑤捕獲対策

前述の4つの対策を地域の実情に応じて実施するだけではなく、農地や集落から群れが移動しない場合や被害が著しい場合は、必要に応じて捕獲を実施します。



4 おわりに

サル対策の基本は「農地や集落をサルのエサ場としない」ことです。そして、集落ぐるみの追い払いを実施することで、サルが人を見たら逃げるようになり、出沒や接近そのものが減少していきます。

サル対策には「これさえやっておけば大丈夫」といったものではありませんので、前述の5つの対策を組み合わせ、根気強く取り組んでいくことが大切です。



サルの電気柵

原稿協力：

農業環境・鳥獣害対策室 主任 村上 豪元氏

ご長寿おめでとうございます!

9月19日は敬老の日でした。

JA 紀州では、管内の99歳以上の組合員（組合員ご家族）の方々を表敬訪問しました。花束と記念品を贈呈し、ご長寿のお祝いをさせて頂きました。



御坊市 津村 イチノさん(102歳)



日高川町 山本 スエさん(100歳)



日高川町 東村 房子さん(100歳)



日高川町 天野 フジエさん(100歳)



日高川町 裕野 タネさん(100歳)



日高川町 鈴木 ナカさん(100歳)



由良町 川村 テイさん(99歳)



由良町 坂口 スミ子さん(99歳)



印南町 寺西 カツエさん(101歳)



印南町 為橋 トモエさん(99歳)



みなべ町 岡田 コシエさん(100歳)



みなべ町 池田 コリエさん(99歳)



みなべ町 寺本 ミネさん(100歳)

緑のカーテン 大作戦



和歌山県女性組織連絡会では、県内統一活動として「和歌山 JA 女性会 緑のカーテン大作戦」を実施しています。今年は、女性会員・支店のほか、保育園・保育所も取り組んでくれました。

緑のカーテンとは、CO₂削減、夏の節電対策として、ゴーヤなどのツル性の植物を建物の窓際に育てて作る、自然のカーテンです。直射日光を遮り、室温の上昇を抑えるほか、植物の葉から水分が放出され、室内に入ってくる風が涼しく快適に過ごすことができます。室内が快適になることでエアコンの使用を控えることができ、エネルギー消費量を削減し、二酸化炭素排出量を抑制する効果があります。



JA 紀州管内で
緑のカーテンに
取り組んでくれた方々を
ご紹介します。





～健全でたくましい精神・体力を増進し、規律正しい心を育んで～

優勝

上南部少年野球クラブA



準優勝

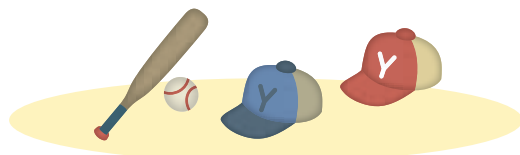
印南ビッキーズ



第13回

JA旗争奪
学童野球大会

9月3・10日、第13回JA旗争奪学童野球大会（梅の郷支店・印南支店主催）を開き、みなべ・印南両町の少年野球クラブから10チームが参加しました。8月24日にアグリセンターみなべで抽選会および開会式を行いました。みなべ町の共和球場・晩稲グラウンドの2会場で熱戦が繰り広げられ、見事優勝を勝ち取ったのは、上南部少年野球クラブAチーム。準優勝には印南ビッキーズが輝きました。



優勝

松原少年野球クラブ



準優勝

内原少年野球クラブ



第19回

JA紀州旗争奪
日高地区学童野球大会

9月25日、10月2日、第19回JA紀州旗争奪日高地区学童野球大会を開き、由良スポーツ少年団野球クラブ、和田少年野球クラブ、内原少年野球クラブ、日高少年野球クラブ、松原少年野球クラブが参加しました。9月14日にアグリセンターひだかで抽選会および開会式を行いました。美浜第一グラウンド、日高町若もの広場で熱戦が繰り広げられ、決勝戦は松原少年野球クラブが7対0で内原少年野球クラブを制し、優勝に輝きました。

最高殊勲選手賞	木村 京(松原)
敢闘選手賞	廣田 雅也(内原)
優秀選手賞	芝 綾志(内原)
	濱村 碧翔(日高)
	山川 竜輝(松原)
	前田 一平(由良)
	山西 庄登(和田)

(敬称略)



優勝

印南黒潮少年野球クラブ



準優勝

御坊少年野球クラブ



第12回

JA共済杯学童軟式野球大会

第39回

学童部日高支部秋季大会兼

9月4・11・19日、第39回学童部日高支部秋季大会 兼 第12回JA共済杯学童軟式野球大会日高支部予選が行われ、21チームの野球クラブが参加しました。決勝戦は御坊小学校のグラウンドで行われ、印南黒潮少年野球クラブが御坊少年野球クラブを6対4で制し、優勝しました。上位2チームは、県大会に出場します。

JA共済アンパンマン 交通安全キャラバン

親子で 交通ルール学ば



©やなせ・F・T・N

▲緑色のキャラバンカーが登場！

9月17日、日高川交流センターでJA共済アンパンマン交通安全キャラバンを開催し、地域の親子ら819人が参加しました。ステージでアンパンマンたちが信号の見方や横断歩道の渡り方を実演し、交通ルール等について説明しました。ショーの後は、アンパンマンたちとの握手会を楽しんでいただき、また、来場してくれた子ども達に、「それいけ！アンパンマン」の弁当箱をプレゼントしました。

✓ 食農教育支援 ～自然の恵みに感謝する気持ちを育んで～

JA では、地域の子供たちの食農教育を支援しています。青年部、営農指導員、各支店職員、くらしの活動課職員らがお手伝いしています。

●岩代小学校

8月4日、食育交流学習で、新潟県南魚沼市第二上田小学校6年生の10人が岩代小学校を訪れました。両校の取り組み紹介や、梅干し入りのおにぎり作りなどをして、交流を深めました。梅ジュース作り体験では、岩代出張所職員が講師を務めました。



8月30日、梅の天日干し作業を行いました。



●藤田小学校

9月15日、5年生18人で稲刈りをしました。



●いなみこども園、印南小学校

9月2日、園児66人、3,4年生77人で、大根の種をまきました。



●稲原小学校

9月7日、1,2年生27人で、大根の種をまきました。



●野口小学校

9月15日、3年生22人、5年生16人で稲刈りをしました。



日高郡内 第1号店 セブン-イレブン日高町荊木店がオープン！

8月26日、セブン-イレブン日高町荊木店が開店しました。JA 紀州は株式会社セブン-イレブン・ジャパンと、今年6月に業務提携を締結。JA 紀州コンビニ株式会社を子会社として設立し、コンビニエンス事業を展開します。

26日はオープン記念セレモニーを行い、関係者らでテープカットを行いました。開店から3日間は、オープン記念セール、nanacoカード新規作成の推進、同カードのチャージキャンペーンを行い、多くの来店客でにぎわいました。

日高町荊木店は国道42号線沿いに位置し、Aコープひだか店の敷地内にあり、ファーマーズマーケットさわやか日高との三位一体で店舗づくりをしながら、地域の生活インフラを守っていきます。ぜひご来店ください！



▲テープカットの様子



▲開店と同時に沢山のお客様がご来店くださいました



▲きいぽんも応援にかけつけました！

女性大学『ヴィーナス』第2回講座 「マイナス10才！夢の若返り&美肌スムージー作り」

8月26日、がいなポートで第2回講座を開き、受講生14人が参加しました。ヨギーニN'sの代表 新田佐津紀さんを講師に招き、顔ヨガに挑戦しました。普段動かさない顔の筋肉を動かすことで、シワ、たるみ、むくみなどを解消。マイナス10才を目標に、毎日続けることでさらに効果が期待できます。たくさん顔を動かしたあとは、新田先生特製的美肌スムージーを試飲しました。10年後も美しい女性を目指します！



◀ヨギーニN'sの
新田佐津紀先生



▲ポーズをとって実践！



▲顔ヨガ前に、顔全体を優しくタッピング



▲顔ヨガは思った以上にハード！疲れた所に美容成分たっぷりのスムージーで栄養補給♪

✓ 女性会 親子ちゃぐりんフェスタ 大阪で市場見学など楽しむ

8月25日、親子ちゃぐりんフェスタに、管内の親子ら40人が参加しました。大阪中央青果を見学し、野菜や果物の流通について学びました。



✓ 青年部 4団体交流会で親睦深める

8月27日、印南町のサンシャイン牧場で、梅郷青年クラブ、商工会青年部、4Hクラブ、青年部みなべいなみ支部の4団体交流会を開き、約30人が参加しました。新入部員の推進を兼ねた意見交換会を行いました。



✓ フレッシュミズ 交流会で親睦深める

9月3日、印南町のサンシャイン牧場で交流会を開き、メンバーや子どもなど48人が参加しました。マスカットの収穫やバーベキューを楽しみ、親睦を深めました。



✓ 獣害対策に 動物捕獲オリを寄贈

9月15日、みなべ町の鳥獣被害防止対策協議会に「折り畳み収納動物捕獲オリ」1基を寄贈しました。JAが実施する鳥獣害対策の一環で、管内で深刻化している鳥獣被害対策として、要望のあった市町村に、オリを寄贈しています。今年は管内の3市町に合計3基寄贈しました。



▲吉本正二みなべ副町長(右)に目録を贈呈

✓ 女性会 親睦旅行 ホテルニューオータニに泊まって キャッツを観る2日間の旅

9月15、16日、JA女性組織仲間づくり旅行に、県内JAの女性会員約300人が参加しました。JA紀州からは会員69人が参加。ホテルニューオータニでディナーを楽しみながら会員同士の交流を深め、2日目には劇団四季の『キャッツ』を観劇しました。



✓ 『紀州 花野果市』 栽培講習会を開く

9月5日、JA紀州本店で、栽培講習会を開きました。紀州 花野果市では、引き続き出品者を募集していますので、詳しくは営農企画課（☎0739-72-3956）までお問い合わせ下さい。



✓ 営農販売トピックス

✓ 野菜類

●ブロッコリー播種作業

8月中旬から、川辺播種施設でブロッコリーの播種作業が始まり、約1,200枚を播種しました。

●一寸低温処理

8月26日、切目集荷場で、一寸の低温処理作業を行いました。

●みなべいなみミニトマト部会

8月26日に優糖星部、9月6日に王糖姫部、9月14日に赤糖房部が総会を開きました。

●みなべいなみようさい部会

8月29日、総会を開きました。

●御坊営農販売センター管内 ピーマン部会

9月3日、総会を開きました。

✓ 柑橘類

●中央柑橘部会

8月29日、通常総会を開きました。



●みなべいなみ柑橘部会

9月2日、総会を開きました。

●中央柑橘部会 柑橘類目揃え会

9月17日、川辺果樹選果場で「YN26」「日南1号」の目揃え会、9月28日には「ゆら早生」の目揃え会を開きました。生産者らは出荷を前に、規格等を確認しました。



✓ 野菜類

●キュウリ部会

8月23日、反省会を開き、生産者16人が参加しました。市場情勢、販売実績等について検討しました。



●日高営農販売センター管内 ミニトマト生産者大会

8月24日、ミニトマト生産者大会を開き、生産者34人が参加しました。市場情勢報告・販売実績・定植後の管理について検討しました。



●にんにく栽培講習会

8月25日、衣奈事業所でにんにくの栽培講習会を開き、生産者21人が参加しました。



●みなべ・印南地区 夏秋なす勉強会

8月26日、生産者7人、JA職員9人が参加しました。栽培技術の確認と販売情報の共有を図りました。





柑橘類



本格的な温州みかんの収穫を迎えました。収穫前にもう一度、極小果や傷果等の樹上選別を行って下さい。

仕上げ摘果

早生、中生については仕上げ摘果の時期です。

小玉果、奇形果、傷果、病害虫被害果等を摘果して下さい。

今年は夏の干ばつの影響で、ふところ、すそを中心に小玉果が多く着果しているため、しっかり摘

果して下さい。着果量が少ない樹では大玉果になっても摘果せず秋芽の発生がなくなる10月中旬以降まで遅らせて下さい。

夏秋梢の管理

着果量が少ない樹では9月の降雨が多いと夏秋梢が発生します。放置しておくとう形が乱れ、翌年の直花が多くなり、また、かいう病の発生源にもなるので、10月中旬以降に除去して下さい。

①翌年の結果母枝を確保するために、春枝と夏枝の境目にあるコブを残して切除する。

②直立性の強い夏枝は、春枝まで戻って間引く。

早生の収穫前の腐敗防止剤散布

いよいよ11月から早生みかんの収穫が始まります。収穫の前日までにベフラン液剤25の200倍＋ベンレート水和剤4000倍を混用散布して下さい。

また、収穫が長期にわたる場合、秋雨によって効力が低下する場合があるので、農薬は使用回数制限内で再散布して下さい。

- ・ベフラン液剤25（収穫前日まで3回散布以内）
- ・ベンレート水和剤（収穫前日まで4回散布以内）

ゆら早生収穫後の樹勢回復

収穫後は、樹勢回復のため早急に施肥、千代田液肥1000倍を10日間隔で2～3回以上と灌水（降雨がない場合）を行い、翌年の着果確保に努めて下さい。

中晩柑の秋肥施用

果実肥大、貯蔵性向上、樹勢維持回復のため柑橘施肥基準を参考に施肥して下さい。

うめ



梅園管理について

元肥（9月に施用していない園）

来年の貯蔵養分を蓄積するため重要な時期です。この時期の施用は、主に根に移行後、翌年の果実・葉・新梢・根等に利用されます。

施肥名・量については、各営農指導員にお問い合わせ下さい。

白紋羽病防除

枯れた樹の根は、掘り上げ園外に出して下さい。

定植時に苗木に、フロンサイドSC 500倍を1本当たり50～100ℓ灌注して下さい。

強風・台風対策

風の影響を受ける園では、防風樹や防風ネット等で、強風対策をしましょう。

また幼木は、根が少ないため倒伏しやすく、支柱等で固定して下さい。

もし倒れた場合は、根を切らないようにし土を入れ、休眠期に起こして下さい。

新植・補植穴の準備（1穴当たりの土壌改良資材の施肥例）

- ・苦土セルカ2号（2kg）又は苦土石灰（2kg）
- ・ハイフミン（20kg）又はアヅミン（2kg）
- ・梅一発（14～11～13） 1～2kgを施用して、土とよく混和しておく。